

2013年度防災訓練 「多言語翻訳シミュレーション」を実施して

関東地域国際化協会連絡協議会（(公財)山梨県国際交流協会）

2009年3月21日に締結した「関東地域国際化協会連絡協議会 災害時における外国人支援ネットワークに関する協定」に基づき、2013年9月25日～26日の2日間にわたり、想定被災地を茨城県として、関東甲信圏内において発生する大規模災害に対し、相互に協力し、外国人への支援を円滑に推し進めることを目的に「多言語翻訳シミュレーション」を実施しました。

実施内容

2013年度幹事協会である山梨県国際交流協会（以下、YIA）が多言語翻訳の調整を担当し、次年度幹事協会の茨城県国際交流協会（以下、I.I.A）が想定被災地として、災害状況（道路の通行状況、ライフラインの状況）など、外国人に必要な情報の翻訳依頼の発信を担当しました。

担当協会以外の協会は、I.I.Aから依頼のあった情報を、YIAの調整に基づき、各言語への翻訳を行い支援しました。

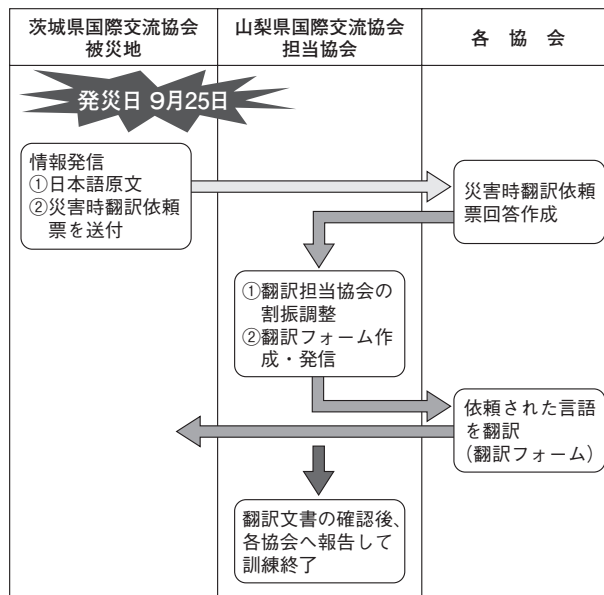
今回の内容は次のフローチャートようになります。

- ①25日に茨城県において災害が発生。（6:00頃を想定）
- ②I.I.Aが、外国人のために、翻訳すべき情報と、必要となる翻訳言語を作成済みの関東ネットによるメーリングリストにより発信する。（9:00頃）
- ③各協会は、これを受け、翻訳が可能な言語をYIAに発信する。（11:00頃まで）
- ④YIAは、これを受け、迅速に、効率的に翻訳できるよう調整し、各協会の分担する言語と情報をメーリングリストを通して各協会へ依頼する。

（13:00頃）

- ⑤I.I.AとYIAは、各協会からのメーリングリストによる翻訳文書の受信を確認する。（16:00頃まで）
- ⑥各協会へ報告をして訓練を終了。（翌日午前）
- ⑦翻訳依頼フォーマットなどの様式は、2011年度と同様のものを使用する。
- ⑧シミュレーションの終了は会員に速やかに伝える。

2013 防災訓練「多言語翻訳シミュレーション」実施計画
フローチャート



※送付方法は、関東ネットによるメーリングリストを使用するものとする。

地震の状況（想定）

地震の状況（2013年9月25日 9時現在）

- 発生時刻 9月25日午前6時15分
- 震度 6強
- マグニチュード 7.5
- 震源地 茨城県北部 深さ30km

翻訳原稿 1

交通機関、主要道路の状況について（9月25日 9時現在）

- ・JR常磐線（取手～いわき間）は全面運休となっています。
- ・上野～取手間は8時過ぎより通常の2～3割程度の本数で運行を開始しました。
- ・常磐高速は谷和原IC以北にて全面通行止めとなっています。
- ・三郷ICより谷和原ICの間は50kmの速度制限で通行できます。
- ・国道354号では鹿行大橋が崩落し、通行止めとなっています。

翻訳原稿 2

電気、ガス、水道の状況について（9月25日 9時現在）

- ・現在、県北地域全域の9市町村では電気、ガス、水道とも点検作業中です。復旧の見込みは立っておりません。県央地域では水戸市、笠間市で全域断水、他の市町村では一部断水となっています。東部ガスは供給停止中となっています。

訓練を終えて ～アンケートから～

訓練終了後、今後改善した方がよいと思う点について各協会からアンケートをとりました。

今回の訓練は実施期日を直前まで伏せておくブラインド型訓練として実施したところ、実践的で鍛えられるという意見がありました。ただ、一方では、担当者が不在であったり、翻訳者（協会の職員ではないボランティアなど）をすぐに確保できなかつたりという問題もあり、できるだけ多くの協力者に訓練の機会を提供するため、2週間程度前に知らせてほしいという意見もあります。ブラインド型訓練にするか計画型訓練にするかは今後、検討していかなければなりません。

翻訳作業においては、日本語の翻訳原稿に解釈が難しい部分があったため、ネイティブの翻訳者が訳しやすいように、やさしい日本語への翻訳を行い、原文とやさしい日本語の両方で翻訳を依頼するとい

う工夫をした協会がありました。やさしい日本語の割り当てと翻訳を先に行うと、ほかの協会が翻訳者へ依頼するときにも活用できるかと思います。

多言語翻訳ならではの苦勞として、少数言語の場合、メールでは文字化けすることがあるため、文字が見にくくなるものの、文字化けの心配のないFAXの活用が提案されました。また、誤訳を防ぐための確認作業をどうするかという問題もあります。そのほか、平時の備えとして、実際に災害が起きた際に担当協会と各協会のやりとりを迅速に行えるよう、あらかじめ各協会の翻訳可能言語を一覧表にまとめておくべきとの意見がありました。

今回は多言語翻訳に重点をおいて訓練を実施しましたが、地震発生に対する防災訓練としては、まず「被災地はどこなのか」をお互いに把握することが必要です。幹事協会は、各協会に被害の有無の確認をすることから始めてはどうか、という意見もありました。

今回の訓練実施に当たって、災害時には難解な翻訳原稿が続々到達し、場合によっては、放射線量などの知らせも必要になってくると思われましたが、訓練であることから比較的やさしい文書とすることを担当協会として心がけました。訓練を主管する幹事協会になるのは13年に1度であり、チューター役は大変であることを実感しました。しかしながら、訓練を年に1度やっておけば、「顔の見える関係」から一歩進んで「顔と名前が一致する関係」に結びつきます。11月に開催した「関東地域国際化協会災害時連携について考える作業部会」において、2014年度も同様のシミュレーションを実施することを決定し、詳細は、実施前に話し合うことにしました。

さまざまな組織形態や、年間計画をもつ国際交流協会間でシミュレーションを行うことは、人的にも、日程的にも調整が難しいことです。今後は、全国レベルで締結を進めている「地域国際化協会連絡協議会における災害時の広域支援に関する協定」に基づく訓練も必要になりますが、普段からの翻訳シミュレーションの実施や、年度当初に各協会の緊急連絡先を記載した名簿や、翻訳可能言語の一覧表の作成を行い、非常時の支援に備えたいと思います。